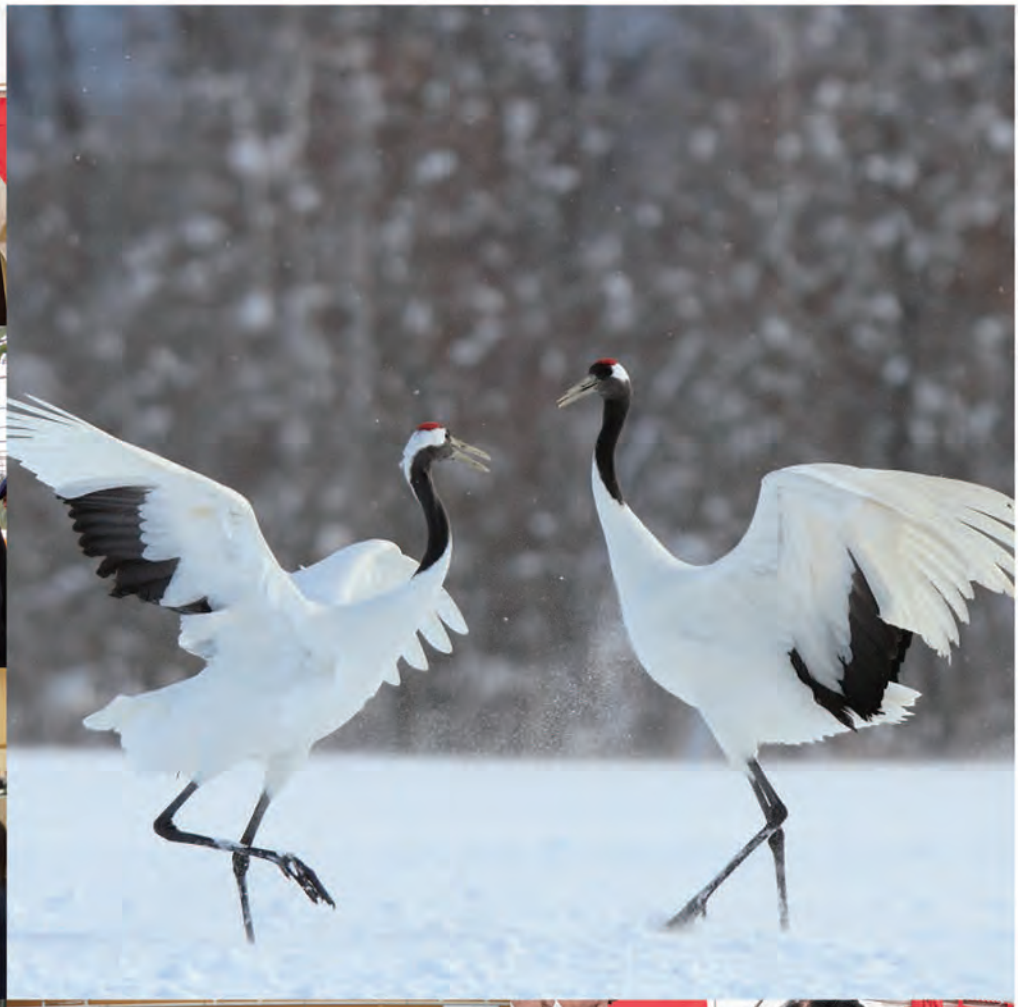
２０２０年１月１日発行
社会福祉法人暁会
山口県下関市大字小野 64 番地の１

2020 新春号 No.81

あかつきだより



2020 子

社会福祉法人暁会　理事長
諸冨　夏子

新年あけましておめでとうございます。

昨年は国内においても暁会においても激動の一年でありました。元号が令和と決まり、新しい時代の到来に喜びをもって迎えた年でした。しかし、度重なる台風被害や台風19号の多県にわたる河川氾濫被害などもあり悲しい出来事も重なりました。消費税10%への変化は介護業界にも大なり小なり影響を及ぼしております。

一方、国内の明るい話題としては、バスケットボールの八村選手の活躍や、皆さんの記憶にも新しいラグビーワールドカップ等、国民の心温まる出来事もありました。

今年の干支は「子」。子は子孫繁栄、生命の始まりといわれております。植物に例えると成長に向かって種子が膨らみ始める時期であり、未来への大いなる可能性を感じさせます。この新しい年に、暁会としても大いなる飛躍が出来るよう努力してまいります。その一つとして、昨年から暁会の新たに取り組んでいる事業としては、（仮称）特別養護老人ホームフェニックス杉並です。予定地の旧税務署の取り壊しもつつがなく終了し、新年より工事の着工が決まり、令和3年12月の開設に向けて準備を進めております。

日々スタッフ一同、努力と献身と研鑽を続けて参ります。利用者様・入居者様が安心して心穏やかに「今を生きる」一助となるようなサービスの提供と継続ができる事業運営を行って参ります。それにより、地域の方々の拠り所となれることを願っております。また、我々も地域に支えられての暁会であると自覚し、今後も地域福祉の原点より、地域に根差した法人となれるよう努力を続けて参ります。

特別養護老人ホームフェニックス
施設長　吉水　千賀子

ユニット型特別養護老人ホーム　フェニックス
施設長　鬼村　伊勢子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
旧年中は皆様よりひとかたならぬご厚情を賜り誠にありがとうございました。今年もよろしくお願いいたします。
さて、今年の干支『子』は十二支のトップバッターであることから、植物に例えると、固い種に押し込められていた生命が「新たに芽えて、いろいろな方向に育ち始める状態を意味すると言われています。過去の成果から引き継ぐべきものを維持しつつ、新たな環境や局面に向けて体制を整えていくと良い年だと思われます。
以上のことから、今年は職員一同、一、福祉サービスを提供する担い手として職員は職種を問わず誰もが自分の役割と使命と目的をもって実行していきます。二、社会福祉法人暁会に勤務する職員としての誇りをもち、法人（事業主）の理念や基本方針や使命等をふまえ、複数の人々と協働して地域社会での人生１００年共生社会に貢献していきます。三、各職種の職員は豊かな知識やしなやかな感性を磨き、高い倫理観の基に、法人（事業所）の理念と方針と目標を実現していきます。
これらを胸に刻み、入居者・利用者一人ひとりの尊厳ある暮らしを守り、質の高い福祉サービスを提供できるよう活動して行く所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。
末筆ではございますが、本年が皆様にとって実り多い年になりますよう願って年頭の挨拶とさせていただきます。

特別養護老人ホームあかつき苑
施設長　長尾　朋絵

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
今年も無事に新しい年を迎えることができました。これもひとえにご利用者様、ご家族の皆様、そして地域の皆様の多大なるご支援、ご協力をいただいたことによるものと、心より感謝申し上げます。
昨年は、天皇陛下の即位、それに伴う改元という大きな出来事がありましたが、台風や大雨に伴う自然災害も多い年でした。当施設も近くの河川が氾濫する可能性があり心配をしました。幸い被害はありませんでしたが、実際に避難することになったらと考えると不安な点もあり、防災計画の見直しが今後の課題だと感じました。
２０２０年は、「庚子（かのえ・ね）」年です。新しい生命が種子の中に萌し始め、発展や繁殖を意味し、新しいことを始めるととてもうまくいく年だそうです。当施設は今年、開設９年目を迎えます。今まで以上に、皆様に安心して、また満足して過ごして頂ける施設を目指し、新しい事にもチャレンジしていく年にしたいと思います。
末筆ではございますが、新しい年が皆様にとりまして更に良い年となりますよう祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

養護老人ホームやはず苑
施設長　坂林　和博

新年あけましておめでとうございます。
令和となって初めての新年、皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。
本年は、いよいよ東京オリンピック、パラリンピックが開催される記念すべき年であり、また、社会的にも、新しい時代の歴史を築いていく上で、大変重要な年になるのではないかと思っています。
暁会として防府市で事業を開始して16年目となります。地域の皆様からのご支援を頂きながら運営をさせて頂く中で、日々地域の皆様への感謝の思いが強くなるのを実感しています。私たちとしては、利用者様に一日一日を大切に、安心して過ごして頂くためのお手伝いをさせて頂く事が、何よりの使命であり、誇りともなっています。誰もが安心して我が町で暮らして頂けるように、私達も日々精進しながら、使命と誇りを胸に頑張っていきたいと思います。
本年も、何卒ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ケアハウスあかつき
施設長　綿谷　昌喜

明けましておめでとうございます。
旧年中は大変お世話になりました。皆様方のご指導・ご協力に厚くお礼申し上げます。
さて、今年は子年です。子年は新しい運気のサイクルの始まりだそうです。暁会においても、心機一転、力を合わせて盛り上げて（「ワンチーム」で）、厳しい介護福祉環境を乗り切っていきましょう。
ケアハウスあかつきでは、平均年齢85歳の比較的お元気な高齢者の方が多い施設ですが、足腰がしっかりしていても常に転倒骨折のリスクがありますので、今年も、昨年から試験的に行っているリハビリ体操後の簡単な下肢強化ストレッチ体操を、効果を計りながら継続して行いたいと思っています。
また、七夕飾りの短冊で「いつまでもケアハウスにいたい」等の願いを見ると、職員一同、明るくて暖かい施設を目指して頑張らなければならないと思います。
今年もご支援・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

特別養護老人ホームフェニックス一の宮
施設長　田上　雅史

新年あけましておめでとうございます。
旧年中は、一方ならぬご厚情を賜り、厚くお礼申し上げます。また新たな年が始まり、身も心も引き締まる思いであります。
昨年は「令和」への改元や消費税率の改定等、大きな時代の変革が感じられた１年でありました。また、今年は４年に１度のスポーツの祭典があり、日本中が活気づく中、暁会にとっては来年の杉並区における大規模施設の開設のための準備期間として、大変重要な１年となります。
フェニックス一の宮においては、今年の３月末で開設より丸５年が経過します。節目の年でもあり、また干支も先頭の「子」に返っておりますので、我々も初心に返り、「心機一転」、地域密着型の施設としての役割を改めて見つめ直し、地域に、入居者・利用者に、法人にとって、必要とされる施設を築けるよう努めて参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。
末筆となりましたが、本年が皆様にとりまして幸多き一年になりますことを祈念して、年頭の挨拶とさせて頂きます。

地鎮祭

（仮称）特別養護老人ホームフェニックス杉並

令和2年1月12日（日）の大安吉日の日に、松井建設株式会社様、株式会社 伊藤喜三郎建築研究所様、医療法人アドベンチスト会様、天沼新生会 会長様、天沼尚和会 会長様にご列席いただき、（仮称）特別養護老人ホームフェニックス杉並　新築工事 地鎮祭が執り行われました。

前日の天気予報では雨との予報でしたが、当日は天気に恵まれ、気持ちよく晴れ渡る中で執り行うことができました。まっさらな土地に大きなテントが建てられ、その中に祭壇等がありました。その仕切られた空間はなんだか空気が澄みピンとした場所に感じられました。

地鎮祭というのは、建物の新築や土木工事の起工の際などに、その土地の神様を祀り、工事の無事進行・完了と土地・建造物が末長く安全堅固であることを祈願するために、おこなわれる祭りで、別名「とこしづめのまつり」とも言います。今回祈願してくださった熊野神社の御神職様は、竣工後の御利用様達の事も併せて祈願してくださいました。

地鎮祭は一般に「じまつり」などとも呼ばれ、国土の守護神である大地主神（おおとこぬしのかみ）と、その地域の神様である産土神（うぶすなのかみ）、またその土地の神々である「此の地を宇志波伎坐（うしはきます）大神等」をお祀りします。地鎮祭は地域によりお祭りの仕方が異なる場合もありますが、基本的な祭儀の流れは神社の祭儀とほぼ同様です。

特徴的なこととして三つの行事がおこなわれます。一つは祓（はらい）の行事であり、四方祓（しほうはらい）の儀と称して、祭場四方の敷地を大麻で祓ったり、半紙と麻を切って作った切麻（きりぬさ）などを撒き、祓い清めます。二つ目は起工の行事であり、

刈初（かりぞめ）の儀・穿初（うがちぞめ）の儀と称して、施主・施工者が忌鎌（いみかま）・忌鍬（いみくわ）・忌鋤（いみすき）などにより、草を刈り、地を穿つ（掘る）所作をおこない、神様に工事の開始を奉告します。三つ目は供物の行事であり、鎮物（しずめもの）埋納の儀と称して、神霊を和め鎮めるために鎮物の品を捧げて、工事の無事安全を祈念します。鍬入之儀では施工主・設計者・諸冨理事長による「栄!栄!栄!」という威勢の良い声が響き渡った所が印象的でした。繁栄のエイ、永遠のエイや益々栄えますようにと願いを込めての意味があるそうです。

これから2年弱の長い工期となりますが、安全に工事が行われることを祈りつつ、地域の方々にとって素晴らしい施設となるよう、より一層精進を重ねて参りたいと思います。

第22回 下関・門司高齢者医療研究会

2019.10.27

下関、北九州の両市で病院や高齢者施設などを運営する特定医療法人茜会と社会福祉法人暁会、有限会社ナックが主催する下関・門司高齢者医療研究会が10月27日、下関豊前田町の海峡メッセ下関で開催されました。

私たちは、認知症のご高齢者に「パーソナル・ソング」を聴いていただくという認知症ケアについて特にリアクションされた4名の方の事例を報告しました。「パーソナル・ソング」の条件は歌詞があり人の声が入った「歌」であること、ヘッドホンを使用し落ち着いた環境で、その方の思い入れの強い歌を聴くことがポイントです。

研究テーマの決定に至るまで、メンバーで約1年間話し合いを重ねました。まずご家族にアンケートを行い、ご回答いただけた57名の入居者様にパーソナルソングと思われる歌を聴いていただき、その後、効果を感じられた8名の入居者様に3ヶ月間、毎日15分程度パーソナルソングを聴いていただきました。全職員で協力し対象の利用者様に毎日パーソナルソングを聴いていただき、実施前・実施中・実施後のご様子をうかがい、指定の用紙に記録していきました。

その結果、笑顔や食事摂取量が増え、落ち着いた時間を過ごされる等の嬉しい結果が得られました。他にも、音楽に合わせて楽しそうに踊られたりする姿も拝見することが出来ました。

テーマの決定までに長い時間が掛かりましたが、テーマが決まった後はスムーズにケアを実施することができました。そして全職員の協力もあり、最優秀賞を受賞することができました。今後も入居者様にパーソナルソングを聴いていただき、認知症ケアに活用していきたいと思います。

令和元年度秋季一泊旅行

障害者支援施設フェニックス

障害者支援施設では、10月22～23日に恒例の秋季一泊旅行を行いました。今年の行き先は、お隣の福岡県北九州市。ご利用者21名、ご家族8名が参加されました。

一日目は、八幡東区にある北九州市立いのちのたび博物館です。豪華なお弁当を食べた後、館内を散策し、大きな恐竜の化石や動物の剥製を見てその迫力に圧倒されました。宿泊先は、玄界灘を一望できる、若松区のかんぽの宿北九州。素晴らしい夕焼けに「きれい!!」と歓声を上げ、暫らく眺めました。そして旅行の一番のお楽しみの宴会です。普段、施設では、あまり食べることのないメニューに「しあわせ!」「最高!」と舌鼓を打ち、余興では、クイズやビンゴゲームを行って景品をゲットして喜んだりと、笑顔と笑い声の溢れる楽しい時間を過ごすことが出来ました。

二日目は、イオンモール八幡東でショッピングを楽しみました。あまりの広さに少々びっくりしていましたが、店内を巡りながら、たくさんの買い物をして満足気でした。昼食は、各自で食べたいものを選んで食べてもらったのですが…不思議なことに、普段は、とても小食の方や好き嫌いが多い方が笑顔でしっかり食べている姿が見られました。買い物を楽しんだ後は、名残惜しそうに施設への帰路に。皆さん少し疲れた様子でしたが、旅行の思い出話にはニコニコと笑顔を見せていました。二日間、天気にも恵まれ、施設では、見ることができない、いつもとは違ったご利用者の表情や行動も見ることができ、貴重な時間となりました。今後も利用者の方に喜んでいただける企画を実施していきたいと思います。

バスハイク

特別養護老人ホームフェニックス

昨年、11月3日（日）フェニックス家族会主催のバスハイクが行われました。

当日、出発前に雨がぱらつき開催が心配されましたが皆さんが乗車し終わったころには雨も止み、陽も差してきて無事出発する事が出来ました。

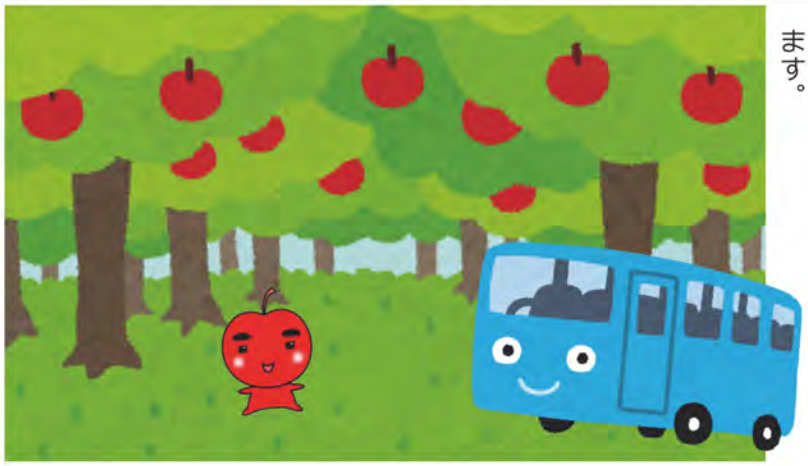
参加者は、入居者様17名ご家族様27名　職員19名の総勢63名です。

行先は下関市豊田町にある「梶山りんご園」で道中では、皆さん久し振りの外出にワクワクされ、菊川の田園や車窓から見える風景を眺めながら会話が弾んでいました。フェニックスを出発して30分後目的地へ到着しました。

りんご園のスタッフより収穫方法について説明を受けた後、りんご園に入り、早速、皆さん、御家族と一緒に目線より少し高い位置にあるりんごを一つ一つ見ながら「これが甘そう」「あっちのほうが美味しそう」と真剣に吟味してもぎ採っていました。日頃あまり積極的に食事を摂られない入居者も1口食べると「美味しい」と笑顔になり、進んで召し上がっておられました。そのままでは食べることが難しい方にはすりおろして食べて頂き、もぎたてのみずみずしさを味わってもらうことが出来、大変喜んでいました。

昼食はりんごに囲まれて皆でお弁当を頂きました。食後も園内を散策され最後に入居者様、御家族、職員と皆で記念撮影をし、それぞれ、車、バスに乗車。皆さん笑顔でりんご園の方々に手を振りながら帰路に着きました。穏やかな小春日和の中、ひと時の楽しい時間を過ごす事が出来ました。

今後も入居者の皆さんの生活がより一層有意義なものになるよう職員一同頑張っていきたいと思います。



令和元年度 社会福祉法人暁会忘年会

2019.12.13

12月13日（金）にシーモールパレスにて「令和元年度社会福祉法人暁会忘年会」が盛大に開催されました。

河内山理事長特任補佐より開会のご挨拶を頂いたあと、永年勤続表彰が行われました。今年度は勤続15年表彰8名、勤続10年表彰7名で15名の表彰がされました。

綿谷施設長の乾杯の御発声のあと、楽しい会食と余興が始まりました。今回は、事業所対抗でゲーム大会を行いました。

昨年好評だった激辛シュークリームに引き続き、今回は、ワサビたっぷりのかっぱ巻きでロシアンルーレットを行いました。施設長や事務長、主任にもご参加いただき、今回もとても盛り上がりました。

また、美味しい食事を囲み、日頃あまり交流する機会がない方たちと楽しく交流することができ、有意義な時間を過ごしていただけたことと思います。最後に小川事務長による一丁締めで閉会しました。

本年も無事に忘年会を開催することができましたことを心より感謝いたします。